法然上人
浄土宗
開宗850年
お念仏からはじまる幸せ
令和6年

お念仏からはじまる幸せ

春のお彼岸を迎える三月となりました。

さて、皆さまは幸せになりたいと願い、日々お暮らしだと思いますが、何をもって「幸せ」だとするのか明確に答えることは難しいものです。十人十色、人それぞれ、幸せの物差しは違うことでしょう。

浄土宗の宗祖、法然上人はたくさんのお言葉を残しておられますが、その中に「幸せ」という言葉は見当たりません。しかし、「悦び」という言葉は使われています。それは『小消息』というお手紙の一節にあります。

「受け難き人身を受けて、遇い難き本願に遇いて、
発し難き道心を発して、離れ難き輪廻の里を離れて、
生まれ難き浄土に往生せん事、悦びの中の悦びなり」

あらゆる生物は遥か昔から生と死をくり返してきた。
いま私は、前世で積んだ善い行いが報われて、受け難い人間としての生を受けた。
そして、その御名をお称えすれば往生できるという、出遇うことが難しい阿弥陀さまの本願に出遇い、このたび、発こすことの難しい、仏の道を求める心を発こし、これまで逃れることができなかった輪廻から離れることができ、生まれることの難しい、仏さまの世界に往き生まれさせていただける。
これはなんと嬉しく悦ばしいことか。

幸せになりたい、と願うわたしたちを、必ず救ってくださるという、お念仏に出遇えたことが「悦びの中の悦び」であると法然上人はおっしゃっています。

承安五年（一一七五年）の春、「すべての人が救われる道」を見出すため、法然上人は三十年にわたるご修行の末、お念仏のみ教えに出遇い、浄土宗を開かれたのです。

本年、令和六年は、法然上人が浄土宗を開かれて八百五十年に当たる節目の年となります。

令和の世に生きるわたしたちも、お念仏を受け取り、お称えするならば極楽浄土へと続く「悦び」を感じることができます。その「悦び」から「幸せ」がはじまります。

南無阿弥陀仏

発 行 ： 浄土宗大阪教区教化団　（3月1日～3月31日の法話担当は、 大阪市 真如院 矢野宗真住職）

☆この法話内容はテレホン法話（06-6771-7768）で、音声によってもお聴きいただけます。また、毎月1日に法話の内容が変わります。